

<http://www.rittor-music.co.jp/>  
リズム&ドラム・マガジン

# Rhythm Drumms magazine

For Drummers, Percussionists  
& All The Other Players

2008 **09**  
September

超大特集

## DRUM GOD!!!!!! Steve Gadd

スティーヴ・ガッド





## 2 Live Report

ガッドが魅せた、聴かせた、対応力の異常な早さ

第3回天草国際ミュージックフェスタ  
アイランド・マジック2008

スティーヴ・ガッド ドラム・ショウ  
Five Stars!

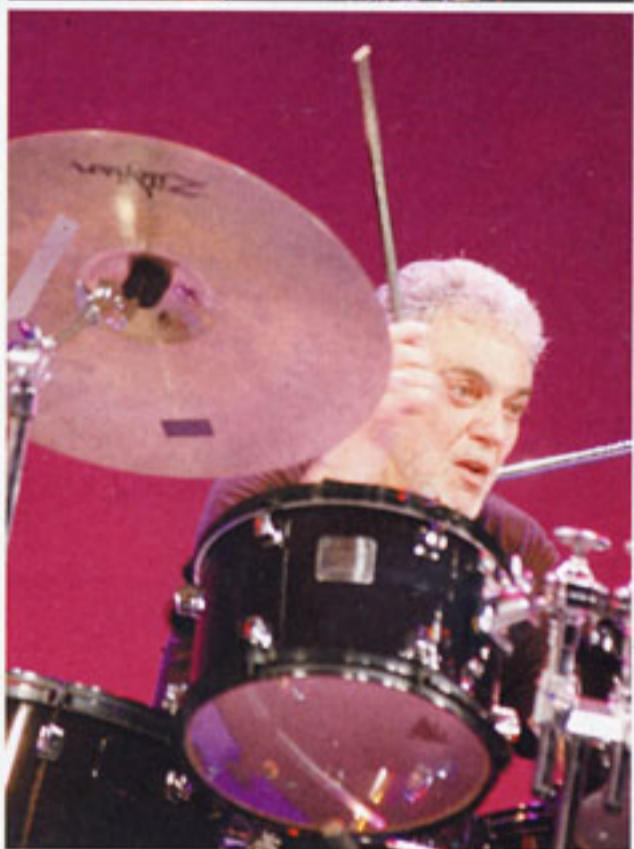
feat. エディ・ゴメス、リチャード・ストルツマン、ピーター・ストルツマン、吉田ミカ guest: 伊藤君子、大島ミチル

2008年5月8日～10日、天草市民センター、および熊本県立劇場にてスティーヴ・ガッド ドラム・ショウと、もちろんガッドも参加したオール・スター・バンド、Five Stars! のコンサートが行われた。リラックスと緊張が交錯した極上のライブの様相(8日&9日)をレポート。

まずは5月8日、「スティーヴ・ガッド ドラム・ショウ」の様相から。大歓声の中、静かに登場したガッドはゆっくりとドラム椅子に腰を下ろす。マイクを口元に持ってくるとブラシを手に取り、お馴染みの歌いながらのブラシ・ソロ「Bye Bye Blackbird」が始まった。このゆったりと転がっていくスウィングは何なんだろう。会場全体がその心地良さに酔いしれる。その後、それがソロの一連の動作であるかのように、スネアの上にリング・ミュートを乗せ、ストレイナー・スイッチをオンに。スティックに持ち替えて「Crazy Army」のスタート。音量、そして音数も次第にヒートアップしていく様が感動的だ。フラム、バラディドルを駆使したフレーズの切れ味も異様なまでに鋭い。やがて徐々に

Photo: Yumiko Shimosoyama Text: Katsuaki Komiya (Rhythm & Drums Magazine)





アイランド・マジック主催者兼  
世界的マリンビストが見た  
ガッドのすごさ

## 吉田ミカ



まず遠い天草まで、たくさんの Gadd ファンの方々にご来場いただき心から感謝申し上げます。ありがとうございました。2005年米 PASIC で Steve と出会い 3 年がかりのコンタクトで念願の共演が実現しましたが、想像していたより以上に彼のすごさ、素晴らしさを実感しました。リハーサルから興奮の連続で九州公演後は東京でも Live 録音でき、最終日朝は一諸にジョギングまでして信じられないほど彼の音楽、人間性からさまざまなことを学びました。Steve の演奏、音楽を聴きながら、新たなマリンバの可能性を感じ、この出会いをますます発展させていきたいと思っています。今回メシアンの現代音楽をかなり勉強してくれて、すべて変拍子のこの曲をすべて 2 / 4 拍子に書き直して天草に来てくれたことを E.Gomez から聞いたときは本当に驚きました。天草に来る前までポール・サイモンのツアー、その後はジェイムステイラーのツアーでかなり忙しいのに……Steve Gadd は、現在私の一番尊敬する音楽家です。

音量を下げ、最後は聴こえるか聴こえないかの極小の音量までになる。このダイナミクスの幅はわかっているもやはりすごい。その後はカウベルを使ったソングなどのラテン・フレイバーのソロも披露。ウネる 3-2 クラベが実に見事であった。そんな完璧なるドラム・ソロが終わると本イベントの主催者でもあるマリンバの吉田ミカが加わる。マリンバの音階に呼応するようにガッドのマーチング・フレーズが饒舌に語る。さらにその後、ガッドの盟友、ベースのエディ・ゴメス、ピアノのピーター・ストルツマン、クラリネットのリチャード・ストルツマンも加わり絶妙なるアンサンブルを聴かせた。

明けて 5 月 9 日は、Five Stars ! のライブ。スティーヴ・ガッド、エディ・ゴメス、リチャード・

ストルツマン、ピーター・ストルツマン、吉田ミカの 5 人によるジャンルを越えた演奏を存分に“聴かせる”という演出。ゲスト・ヴォーカルで伊藤君子が参加したり、大島ミチル作曲による“和”な曲を演奏したりと、演出も見事。チック・コリアの「スペイン」もこの編成で聴くととても新鮮だ。その中でも特にすごかったのは、オリヴィエ・メシアンの現代音楽の演奏である。幸運にも本公演のリハーサルを見る機会を得たのだが、さすがに超が何個つくかわからない難曲だけあり、ガッドをしても時折考え込む場面も見られた。しかし、この本番の完成度は何だろう。完璧に叩くガッドの姿。しかもこの上ないくらい音楽的。何度も言うが、わかっているも、やはりガッドはすごかった！

